

株式会社トミー  
〒124-8511 東京都葛飾区立石7-9-10

お問い合わせ先  
TEL 03-3693-9033

ホームページアドレス

<http://www.tomy.co.jp>

(事業報告書などのIR情報も当社のホームページでご覧になれます。)

- 決算期 毎年3月31日
- 定時株主総会 6月中
- 基準日 定時株主総会については毎年3月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日
- 配当受領株主確定日 毎年3月31日及び中間配当を行うときは9月30日
- 1単元の株式の数 100株
- 名義書換代理人 中央三井信託銀行株式会社  
東京都港区芝三丁目33番1号
- 同事務取扱所 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
- 郵便物送付及び電話照会先 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部  
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
03(3323)7111(代表)
- 同取次所 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
- 公告の方法 電子公告の方法により行います。  
なお、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載することといたします。  
公告掲載URL (<http://www.tomy.co.jp>)

(お知らせ)

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求、配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。



TopMessage  
Topics  
Report  
Network  
History  
Summary

第54期 事業報告書

平成16年4月1日～平成17年3月31日

**TOMY**  
Dream Energy

株式会社トミー

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。ここに株式会社トミー 第54期事業報告書をお届けいたします。

私たちトミーグループは、平成16年4月に3ヵ年中期経営計画をスタートさせました。

「21世紀のおもちゃ」として「新しい遊びの価値を創造」というビジョンのもと、「利益ある成長」を目標に、売上・利益力の拡大とともに高い効率性を追求する計画であり、この達成を最重要課題としております。

中期経営計画における戦略課題への取り組み状況につきまして、ご報告させていただきます。

### 中期経営計画の戦略課題への取り組み状況

#### I 事業戦略上の課題

##### ① 事業ユニットの創造

平成16年10月に「デジタルギア事業部」および「アパレルチーム」を新設し、今話題のデジタル技術と当社のエンターテインメントノウハウを融合させたデジタル商品の開発、キッズアパレル分野を中心とした当社保有コンテンツの積極活用など、玩具周辺事業拡大を推進しております。同年12月には当社とラナホールディングス株式会社共同出資による雑貨の企画・製造・販売会社「株式会社オムニクル」を設立し、雑貨領域においても事業基盤の更なる強化を図ってまいります。

##### ② 年齢に関係ない事業群による市場の創出

AA(エイジレスエイジ)プロジェクトチームの事業部門化、玩具周辺事業の再強化などにより、幅広い年齢層を対象とした新市場の創出、販売チャネルの多様化を進めてまいります。「のほほん族」の成功ノウハウを活かし、「チャック」、「ユメル」、「マメデルモンのたまご」などのエイジレスエイジコンセプト商品<sup>※</sup>を展開しています。

<sup>※</sup>エイジレスエイジコンセプト商品：年齢に関係ない商品をいう。

##### ③ コンテンツ事業の成功

平成16年10月に「ポケモン事業部」を新設しました。株式会社ポケモンを核とした各会社との連携を一層強化し、映画やポケパークとの連動やポケモンの世界観を表す商品展開などにより、長期成長事業としての確立を目指します。ディズニー事業では、平成17年度に入り講談社の少女雑誌「なかよし」4月号より連載中の「きららプリンセス」のコンテンツ展開を進めてまいります。オリジナルコンテンツについては、ZOIDSでの新TVアニメ投入、トミカでの自動車メーカーとのコラボレーションやブランドCM製作、プラレールでの最新技術を活用した新製品開発、更には新オリジナルコンテンツの創出などにより、ブランド価値の向上を図ってまいります。以上のような諸施策をグループ展開し、玩具発コンテンツメーカーとしての強固な事業基盤を構築してまいります。

##### ④ ディズニー事業の成功

ディズニー玩具のカテゴリー強化のためトレーディングカードゲームなどの充実を図るとともに、グループシナジー追求による市場拡大を進めてまいります。

##### ⑤ 北米市場の拡販・中国市場への参入

平成16年度、業績不振の米国販売子会社につき抜本的な構造改革を実施し、営業、マーケティング、管理部門の強化と商品戦略の見直しを行いました。平成17年度は、「きかんしゃトーマス」60周年ということもあり、トーマスコンテンツを軸に北米市場での事業再構築を図ってまいります。また、中国市場においては、平成16年9月に販売拠点として「多美玩具(上海)有限公司」を設立し、現地代理店と連携し、トミカ、プラレール、エアロアルシーを中心に市場を攻略してまいります。

#### II その他の課題

##### ① 物流戦略

国内物流オペレーション運営業務をアウトソーシングすることにより、トミー流通サービス株式会社をグループ物流の企画会社に改組しました。これまで、流山、柏などに分散していた物流拠点を、平成17年4月に浦安に移社・集中し、国内と海外の物流一元化も含めた効率化推進により、平成17年度より費用削減効果が出てまいります。

##### ② リスク管理体制の強化

平成16年8月の一部商品自主回収・検針検査に関しましては、製造委託先の工場管理体制の強化ならびに当社グループ全体の商品検査体制の見直しを行い、再発防止に向け全社をあげて取り組んでおります。また、内部統制環境の整備やコンプライアンス意識の醸成を図るとともに、従来以上に安心・安全に配慮した高品質な商品を消費者の皆様へ提供してまいります。

当社は、平成17年5月13日に株式会社タカラとの合併、ならびに当社、株式会社タカラと株式会社インデックスが戦略的合併会社の設立運営を行うことなどに関し、基本的な合意に達し、その後、基本合意実現に向けた諸準備を進めております。

この合併は、両社の中軸事業である玩具事業の統合により商品開発力、マーケティング力の相互補完による更なる強化、生産、物流、営業、管理の幅広い部門における効率化による収益力の大幅な向上を図ろうとするものです。さらに、合併後の新会社は、新会社の有するコンテンツを利用したメディアミックス戦略を進展させ、玩具から雑貨に至るまで、幅広い事業分野においてトップ企業を目指してまいります。なお、合併期日は平成18年3月1日を予定しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

平成17年6月



代表取締役社長  
富山 幹太郎

## 雑貨の企画・製造・販売会社 株式会社オムニクル設立

—— 話題性のある雑貨展開を積極的に推進します! ——

コンテンツを軸とした事業領域の拡大を目指し、トイ周辺事業に積極的にチャレンジするため、平成16年12月、ラナホールディングス株式会社との合併により、雑貨の企画・製造・販売を目的とする「株式会社オムニクル」を設立いたしました。

トミーが保有する優良なコンテンツの数々を、「遊び心」たっぷりに雑貨の世界で編集すること… 新設オムニクルが企画した雑貨商材は、平成17年2月に開催されたインターナショナル・ギフトショーで、期待以上の評価をいただくことができました。

認知度の高い定番オリジナルコンテンツの雑貨編集やアイデア勝負の企画商品、話題性ある旬のネタを取り入れた面白商材など、機動力のある企画集団として、たくさんの雑貨商材を創出してまいります。



お披露目の場となった2月の「インターナショナル・ギフトショー」



「ウイスピーボイス～天使のささやき・悪魔のささやき」ギフトショーでも好評をいただいたオムニクル第一弾商品

## 「TOMICA STYLE (トミカスタイル)」デビュー

—— ダイキャストミニカー発、生活空間演出ブランドグッズへ ——

特に親子2代にわたって親しまれている「トミカ」をシンボリックにデザインし、玩具の枠を超えて作られた新ブランド「TOMICA STYLE」の雑貨展開は、今年35周年を迎える「トミカ」の世界をさらに広げるものとして期待されています。

「TOMICA STYLE」は、トミカの「ホイール」と特徴である「ドア開閉」といったアクションギミックをシンボリックにデザインし、オリジナルのクルマとして誕生させた新ブランドです。ファッションや雑貨、インテリアなど様々な生活空間を演出し、日常生活の中で、「トミカ」好きの親子が共有できるグッズの企画開発を進めていきます。

「TOMICA STYLE」の詳しい情報は  
<http://www.tomy.co.jp/tomicastyle/>

※ イメージ写真のため、発売されていない商品も含んでおります。またデザイン・仕様も実際の商品とは多少異なります。



日常生活の中で親子で共有できる商品展開を目指します



トミからしさをシンプルでスタイリッシュにデザイン



## 超低価格R/Cカー「エアロアールシー」、ヒット街道爆進中!

—— 2005年の幕明けは、メガヒット商品とともにやってきた!! ——

驚きのロープライス、本格的なフルアクション、さらには別売りパーツによるドレスアップが楽しめる、豊富なラインナップのラジオコントロールカー「エアロアールシー」を、平成16年12月より発売いたしました。

手軽でいながら本格的な操作性が楽しめる、さらには実車でもトレンドであるドレスアップを遊びに盛り込んだことが受けて、子供たちはもちろん、20代30代の大人まで巻き込んでの大ヒット商品となりました。12車種同時発売という豊富なラインナップには、敢えてなじみのある車種を取り揃え、「親子で楽しむマイカーR/C」というコンセプトでプロモーション展開を行っています。今後はさらに車種を増やしていくことに加え、カスタマイズを楽しむためのドレスアップパーツも充実させ、幅広い遊びの提案をしてまいります。

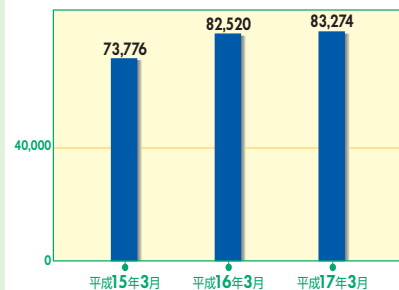


豊富なラインナップが魅力!

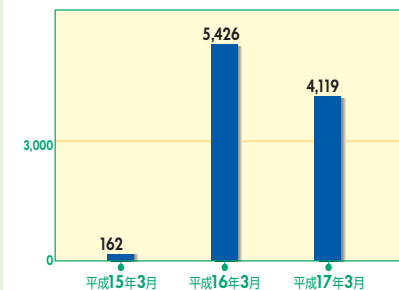
## 連結財務ハイライト

	平成15年3月	平成16年3月	平成17年3月
売上高 (百万円)	73,776	82,520	83,274
営業利益 (百万円)	1,154	6,036	4,461
経常利益 (百万円)	162	5,426	4,119
当期純利益 (百万円)	△1,387	2,501	1,680
総資産額 (百万円)	57,150	47,568	55,507
株主資本 (百万円)	18,477	20,837	21,320
一株あたり当期純利益 (円)	△70.45	114.52	74.98

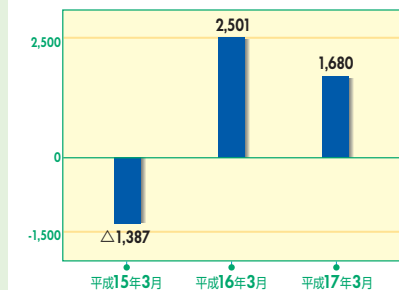
### 売上高 (単位:百万円)



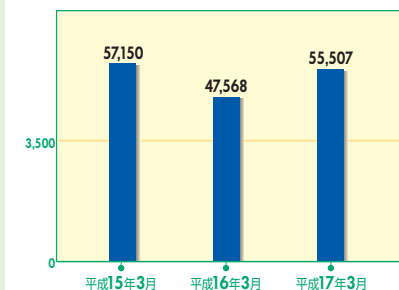
### 経常利益 (単位:百万円)



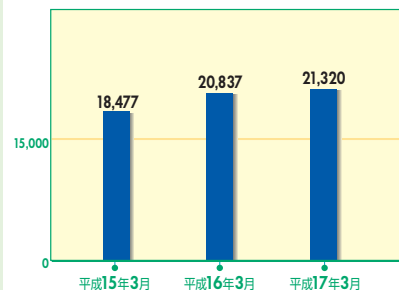
### 当期純利益 (単位:百万円)



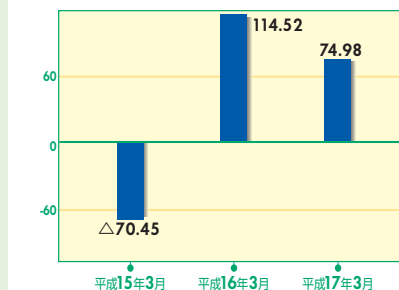
### 総資産額 (単位:百万円)



### 株主資本 (単位:百万円)



### 一株あたり当期純利益 (単位:円)



## 連結

## 当期業績の推移

当期における日本経済は前半は輸出の増加などによる企業収益の改善や設備投資の拡大を背景に回復基調で推移してまいりましたが、後半には原油・素材価格の高騰や輸出の鈍化もあり停滞傾向となりました。個人消費については本格的な雇用回復や所得の増加にまではいたりませんでした。このような中、玩具業界は全体として、少子化、遊びの多様化が進むなか、市場を牽引するヒット商品に欠け、引き続き低調なまま推移いたしました。

業界・市場環境が厳しいなか、当社は当期を初年度とする中期経営計画に沿って、「利益ある成長」実現のための諸施策を積極的に推進してまいりました。

事業面では、重点事業としてディズニー事業の

拡大にグループを挙げて積極的に取り組んでまいりました。また、ポケモン事業もメディアミックス戦略を継続し、グループとして商品展開を行い、玩具から雑貨にいたるまで、マーケティング、商品開発などの強化を図ってまいりました。さらに今後の成長の鍵となるトイ周辺事業拡大策の一つとして、ゲームソフト分野でのコンテンツ・プロモーションの強化、ガチャ事業の積極展開等を行いました。一方、海外販売子会社のTOMY CORPORATION、TOMY FRANCE SARLの不振等により、海外売上高は減少しました。

以上により、当期は国内事業は総じて好調でしたが、海外での販売不振などにより、売上高は83,274百万円(前期比0.9%増)となりました。

利益面では、当社単体での原価改善はありましたが、米国等の不振により原価率が悪化し、また、将来を見据えた戦略投資(研究開発)を進めた結果、販売管理費が増加したことにより、営業利益は4,461百万円(同26.1%減)、経常利益は4,119百万円(同24.1%減)となりました。TOMY FRANCE SARLでの合理化費用・トミー流通サービス株式会社での物流コストの大幅削減につながる子会社事業再構築費用約160百万円、「ポケットモンスター」ぬいぐるみの一部商品回収・検針検査費用200百万円などを特別損失に計上した結果、当期純利益も1,680百万円(同32.8%減)となりました。

## 事業別連結売上高の推移

(単位:百万円、%)

	当期 平成16年4月1日から平成17年3月31日		前期 平成15年4月1日から平成16年3月31日	
	金額	構成比	金額	構成比
玩具事業	80,956	97.2	79,984	96.9
その他の事業	2,317	2.8	2,535	3.1
合計	83,274	100.0	82,520	100.0

## 連結 セグメント別売上高の推移 当期 玩具事業80,956百万円 その他の事業2,317百万円

## 連結 連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）



トミカ峠  
やまみちドライブ

### 1 玩具事業

定番商品の主力であるトミカ、プラレールは企画の拡充や売場の再整備、TVコマースの活用などにより、トミカワールドの

#### 「トミカ峠やまみちドライブ」

などを中心に売上が堅調に推移しました。

#### ポケットモンスター

関連商品は、前期からの人気継続や映画のヒットに加え、グループとして商品のプロモーションを行い、玩具から雑貨にいたるまで売上が大きく伸びました。また、ディズニー関連商品の売上も

#### プリンセスシリーズ

トイストーリーなどが堅調に推移し、雑貨トイ、カプセルトイを含む幅広い分野での商品展開により、引き続き堅調に推移しました。

さらに、人気キャラクター

#### 「ナルト」

を使用したゲームソフトは当期も人気を持続し、ほぼ前期なみの水準を確保することができました。この結果、玩具事業全体の売上高は80,956百万円(前期比1.2%増)となりました。



プリンセスシリーズ  
ノートパソコン  
ティアラージュ  
©Disney



ゲームキューブ用ソフト NARUTO-ナルト- 激闘忍者大戦! 3  
©岸本斉史 スコット/集英社・テレビ東京・びえろ  
©2004 TOMY  
および NINTENDO GAME CUBE は任天堂の登録商標です。商標登録第4503566号、第4468776号

### 2 その他の事業

ポケットモンスター関連の収入などが伸びましたが、その他の事業全体の売上高は2,317百万円(前期比8.6%減)となりました。



ポケモン図鑑アドバンス  
エメラルド ver.  
© Nintendo・Creatures・GAME  
FREAK・TV Tokyo・ShoPro・JR  
Kikaku  
© Pokémon



トイ・ストーリー  
バズ・ライトイヤー  
レーザーアーム  
©Disney/Pixar

科目	期別		科目	期別	
	当期 平成17年 3月31日現在	前期 平成16年 3月31日現在		当期 平成17年 3月31日現在	前期 平成16年 3月31日現在
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
流動資産	44,912	36,606	流動負債	20,682	18,040
現金及び預金	22,578	15,357	支払手形及び買掛金	4,448	3,731
受取手形及び売掛金	11,543	10,134	短期借入金	4,451	4,407
有価証券	565	565	1年以内返済予定長期借入金	2,410	550
たな卸資産	6,595	5,520	未払金	3,844	3,800
繰延税金資産	1,420	1,455	未払費用	2,757	2,868
その他	2,417	3,828	未払法人税等	1,742	328
貸倒引当金	△208	△256	その他	1,026	2,352
固定資産	10,571	10,941	固定負債	13,137	8,422
有形固定資産	7,793	8,281	社債	2,000	2,000
建物及び構築物	2,168	2,394	新株予約権付社債	7,000	—
機械装置及び運搬具	283	383	長期借入金	1,224	3,697
工具器具備品	1,798	2,055	退職給付引当金	1,152	1,079
土地	3,409	3,411	その他	1,759	1,644
建設仮勘定	133	36	負債合計	33,819	26,463
無形固定資産	337	255	少数株主持分	367	267
投資その他の資産	2,440	2,404	資本の部		
投資有価証券	1,018	1,215	資本金	2,989	2,989
繰延税金資産	704	520	資本剰余金	2,936	2,936
その他	805	742	利益剰余金	17,759	16,533
貸倒引当金	△88	△73	土地再評価差額金	25	25
繰延資産	24	20	株式等評価差額金	135	135
資産合計	55,507	47,568	為替換算調整勘定	△1,789	△1,770
			自己株式	△738	△12
			資本合計	21,320	20,837
			負債、少数株主持分及び 資本合計	55,507	47,568

## 連結 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	当期 平成16年4月1日 から 平成17年3月31日 まで	前期 平成15年4月1日 から 平成16年3月31日 まで
売上高		83,274	82,520
売上原価		52,117	50,939
売上総利益		31,156	31,580
販売費及び一般管理費		26,695	25,543
営業利益		4,461	6,036
営業外収益		194	244
営業外費用		535	854
経常利益		4,119	5,426
特別利益		43	52
特別損失		483	1,314
税金等調整前当期純利益		3,679	4,165
法人税、住民税及び事業税		2,098	839
法人税等調整額		△144	776
少数株主利益		46	46
当期純利益		1,680	2,501

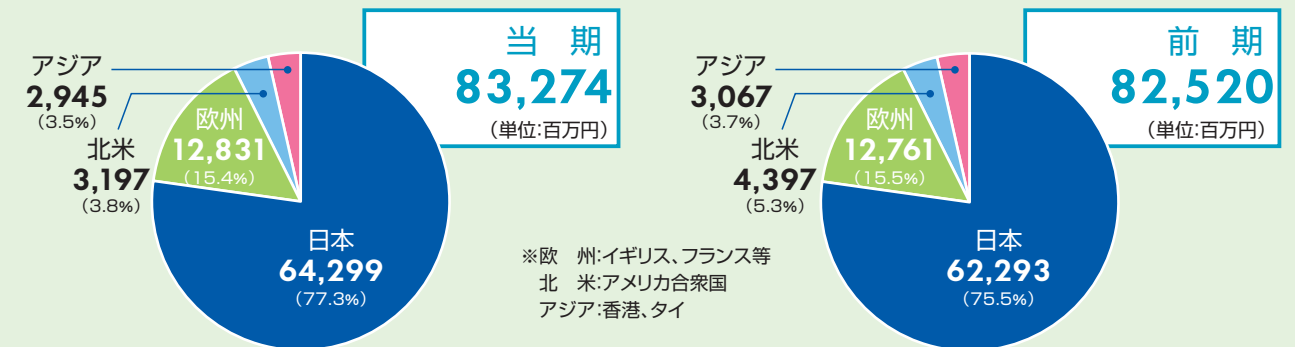
## 連結 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

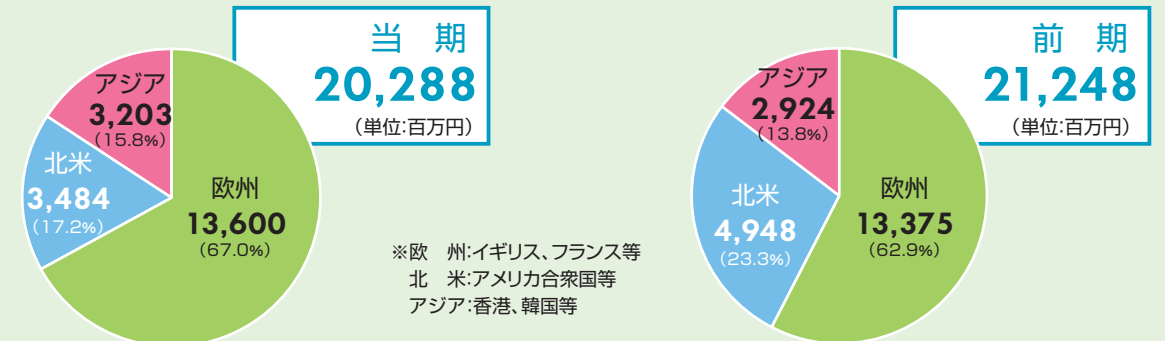
科目	期別	当期 平成16年4月1日 から 平成17年3月31日 まで	前期 平成15年4月1日 から 平成16年3月31日 まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		3,213	6,141
うち、税金等調整前当期純損益		3,679	4,165
売上債権の増減額		△1,243	△555
たな卸資産の増減額		△962	△313
法人税等の支払額		△729	△850
投資活動によるキャッシュ・フロー		△1,366	1,448
うち、有価証券の取得による支出		△1,064	△1,598
有価証券の売却による収入		1,064	4,377
有形固定資産の取得による支出		△1,136	△1,714
財務活動によるキャッシュ・フロー		5,392	△13,562
うち、社債の発行による収入		7,000	800
長期借入金の返済による支出		△613	△349
転換社債の償還による支出		—	△9,965
自己株式の取得		△726	△4
現金及び現金同等物に係る換算差額		△92	△191
現金及び現金同等物の増減額		7,146	△6,163
現金及び現金同等物の期首残高		15,349	21,513
新規連結子会社の現金及び現金同等物		107	—
除外連結子会社の現金及び現金同等物		△36	—
現金及び現金同等物期末残高		22,566	15,349

## 連結 セグメント情報(海外)

### 所在地別連結売上高



### 連結海外売上高



### 単体

#### 単体貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	期別	当期 平成17年 3月31日現在	前期 平成16年 3月31日現在	科目	期別	当期 平成17年 3月31日現在	前期 平成16年 3月31日現在
<b>資産の部</b>				<b>負債の部</b>			
<b>流動資産</b>				<b>流動負債</b>			
現金及び預金		14,910	8,209	支払手形及び買掛金		2,074	2,002
受取手形及び売掛金		7,036	6,759	短期借入金		3,266	2,456
有価証券		565	565	1年以内償還社債		603	0
たな卸資産		1,850	1,863	未払金		2,333	2,570
短期貸付金		5,789	3,715	未払費用		1,104	1,239
繰延税金資産		845	894	未払法人税等		1,439	22
その他		1,823	2,254	その他		809	1,622
貸倒引当金		△2,606	△1,427	<b>固定負債</b>		12,510	8,400
<b>固定資産</b>		11,541	12,795	社債		2,000	2,603
<b>有形固定資産</b>		5,014	5,595	新株予約権付社債		7,000	—
建物及び構築物		1,202	1,373	長期借入金		1,108	3,486
機械装置及び運搬具		20	25	預り保証金		1,095	1,103
工具器具備品		726	1,149	退職給付引当金		969	895
土地		3,044	3,044	その他		337	310
建設仮勘定		19	0	<b>負債合計</b>		24,143	18,315
<b>無形固定資産</b>		314	256	<b>資本の部</b>			
<b>投資その他の資産</b>		6,212	6,942	資本金		2,989	2,989
投資有価証券		914	983	資本剰余金		2,936	2,936
子会社株式等		3,416	3,359	利益剰余金		12,292	11,263
長期貸付金		1,327	2,228	土地再評価差額金		25	25
繰延税金資産		240	251	株式等評価差額金		134	133
その他		407	372	自己株式		△738	△12
貸倒引当金		△96	△252	<b>資本合計</b>		17,640	17,337
<b>繰延資産</b>		24	20	<b>負債及び資本合計</b>		41,783	35,653
<b>資産合計</b>		41,783	35,653				

### 単体

#### 単体損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	金額	
	当期	前期
売上高	46,305	46,088
売上原価	29,484	29,963
売上総利益	16,820	16,125
販売費及び一般管理費	12,903	12,478
営業利益	3,917	3,646
営業外収益	976	913
営業外費用	484	764
経常利益	4,409	3,795
特別利益	6	1,538
特別損失	1,501	2,623
税引前当期純利益	2,913	2,710
法人税、住民税及び事業税	1,447	106
法人税等調整額	59	898
当期純利益	1,407	1,706
前期繰越利益	356	424
中間配当金	102	—
当期末処分利益	1,661	2,131

#### 利益処分

(単位:百万円)

科目	金額	
	当期	
当期末処分利益	1,661	
固定資産圧縮積立金取崩額	2	
合計	1,664	
これを次のとおり処分いたしました。		
利益配当金(1株につき10円)	200	
役員賞与金	80	
別途積立金	1,000	
次期繰越利益	384	

#### 本社・営業所

- 本社  
〒124-8511  
東京都葛飾区立石7-9-10
- 東日本事業所  
〒103-0004  
東京都中央区東日本橋1-1-5  
日幸東日本橋ビル
- 西日本営業所  
〒532-0003  
大阪府大阪市淀川区宮原4-3-7  
理想新大阪ビル6F
- 名古屋出張所 (玩具菓子事業のみ)  
〒453-0801  
愛知県名古屋市中村区太閤1-20-13  
秀幸ビル2F

#### 国内関係会社(14社)

- カプセル玩具等の企画製造販売 (株)ユージン
- 玩具雑貨等の企画製造販売 (株)ユーメイト
- 玩具等の企画製造販売 (株)トミーテック
- 玩具等の輸入販売 (株)トミーダイレクト
- めいぐるみ等の企画製造販売 (株)ハートランド
- 玩具雑貨等の企画製造販売 (株)グローテックインターナショナル
- 玩具雑貨等の企画製造販売 (株)トミーリンク
- 雑貨等の企画製造販売 (株)オムニクル
- 書籍販売、不動産賃貸等 トミー興産(株)
- 玩具雑貨等の卸販売 (株)ユーエース
- 玩具等の企画開発設計 (株)トミーデベロップメントセンター
- 物流サービス トミー流通サービス(株)
- システムの企画開発運用 トミーシステムデザイン(株)
- アフターサービス等 (株)トミーゼネラルサービス



トミー本社

#### 国内関連会社(2社)

- 合成樹脂板等の製造販売 トミー化成(株)
- 玩具等の製造販売 三陽工業(株)

#### 海外ネットワーク

#### 海外関係会社(10社)

- 玩具等の販売 TOMY UK LTD.
- 玩具等の販売 TOMY FRANCE SARL.
- カプセル玩具等の販売 TOMY YUJIN EUROPE LTD.
- 玩具等の販売 TOMY CORPORATION
- カプセル玩具等の販売 TOMY YUJIN CORPORATION
- 玩具等の製造販売 TOMY (HONG KONG) LTD.
- 玩具等の製造販売 TOMY (SHENZHEN) LTD.
- 玩具等の販売 TOMY (SHANGHAI) LTD.
- 玩具等の製造 TOMY (THAILAND) LTD.
- カプセル玩具等の販売 YUJIN MICOTT KOREA CO., LTD.



TOMY UK LTD.



TOMY FRANCE SARL.



TOMY CORPORATION  
TOMY YUJIN CORPORATION



TOMY (HONG KONG) LTD.



TOMY (THAILAND) LTD.



### TOMY'S HISTORY (PART 5)

「破壊の10年・創造の10年」—— 社長に就任してからの年月を振り返って、  
富山幹太郎(現社長)がことあるごとに口にするフレーズがある。  
そこには一言で語り尽くせぬ苦悩や自責、信じる道を進もうとする気概や情熱など、様々な想いが凝縮されている。  
若干32歳にして背負わなければならなかった荷物の大きさは、誰にも理解することは出来なかったのかもしれない。

80年代に入ると、玩具業界はひとつの転換期を迎えます。消費者の嗜好は従来型の玩具からエレクトロニクス玩具やTVキャラクター商品へと変化し、多様化した商品を扱う売場もこれまでの百貨店、専門店から全国展開の量販店へと移行していきました。しかしながら、こうした消費者や市場の変化への対応の遅れが、徐々にトミーの体質を弱体化させていくこととなります。さらにこの状況に追い討ちをかけたのが、1985年のプラザ合意による円高の加速でした。危機的状況を乗り切るため、同年5月に副社長に就任した富山幹太郎(現社長)は、存続をかけた改革に着手するべく「第三の創業」を宣言し、再建に向けての施策を次々に断行していきます。しかしながら、かつてない危機に瀕した状況の中で、もはや合理化は避けられない決断になっていました。富山幹太郎副社長を中心とする経営革新委

員会がまとめた再建計画に基づき、トミー・コーポレーションはコレコ社に売却され、国内では希望退職者の募集と主要生産拠点の二事業所閉鎖という合理化により、事業構造の改革が行われることとなりました。同時に経営体制も刷新され、1986年12月、富山幹太郎社長が誕生、経営陣の若返りにより、行動力のある新体制がスタートしました。「おもちゃ本業に徹する」「国内市場を重視する」といった基本姿勢のもと、国内販売重視の会社を目指し、89年にはトミー工業株式会社と株式会社トミーは合併し、新生「株式会社トミー」が誕生します。その後も改革の手を休めることなく、顧客指向、マーケット指向の考え方のもと、旧来の開発部門を発展的に解消し、開発と企画を統合した事業部制を打ち出していきます。さらに、トミー・コーポレーションの売却先であるコレコ社が業績不振に陥るや販売権の買戻しを行い、シンガポ

ール工場の閉鎖、タイ工場の設立、中国生産拠点の確立など、次々と海外戦略の再構築も行っていきました。再生の足固めがほぼ完成した95年には、次の10年を見据えて、「玩具」「雑貨」「マルチメディア」の3本柱に注力するという事業の多角化戦略を発表し、その実現にむけて新組織体制を構築していきます。96年、社長就任10年の節目を迎えるにあたり、富山はグループ社員に向けて原点回帰を意味する「トミールネッサンス」を宣言しました。これは過去の栄光を真似するのではなく、新しいメンバーが今の時代にあったやり方で、かつての黄金期を再現するという意味が込められていました。この旗印のもと、中・長期経営方針が策定され、「創造の10年」にむけて新たななるチャレンジが始まっていくのでした。



### 会社概要 平成17年3月末現在

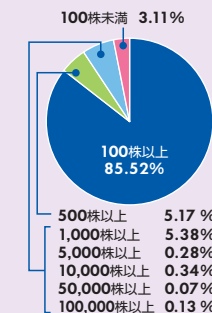
商号	株式会社トミー																						
所在地	東京都葛飾区立石7丁目9番10号																						
設立	昭和28年1月17日(創業大正13年)																						
資本金	29億8,994万円																						
発行済株式総数	20,419,299株																						
主な事業内容	1. 各種玩具雑貨、食品付玩具類の企画・製造・販売ならびに輸出入 2. テレビゲームソフト、乳幼児関係商品等の企画・製造ならびに販売 3. コンピュータのソフトウェアの企画・開発・製造ならびに販売																						
役員	<table border="1"> <tr> <td>代表取締役社長 兼最高経営責任者</td> <td>富山 幹太郎</td> </tr> <tr> <td>専務取締役 グループ国内事業担当</td> <td>奥秋 四良</td> </tr> <tr> <td>常務取締役 兼最高財務責任者</td> <td>三浦 俊樹</td> </tr> <tr> <td>常務取締役 グループ海外事業担当</td> <td>高橋 勇</td> </tr> <tr> <td>取締役 兼常務執行役員 トイ事業本部長</td> <td>柳澤 茂樹</td> </tr> <tr> <td>取締役 生産・技術統括担当</td> <td>岡田 三郎</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>渡辺 泰行</td> </tr> <tr> <td>取締役</td> <td>新美 春之</td> </tr> <tr> <td>常勤監査役</td> <td>松葉 光雄</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>吉成 外史</td> </tr> <tr> <td>監査役</td> <td>梅田 常和</td> </tr> </table>	代表取締役社長 兼最高経営責任者	富山 幹太郎	専務取締役 グループ国内事業担当	奥秋 四良	常務取締役 兼最高財務責任者	三浦 俊樹	常務取締役 グループ海外事業担当	高橋 勇	取締役 兼常務執行役員 トイ事業本部長	柳澤 茂樹	取締役 生産・技術統括担当	岡田 三郎	取締役	渡辺 泰行	取締役	新美 春之	常勤監査役	松葉 光雄	監査役	吉成 外史	監査役	梅田 常和
代表取締役社長 兼最高経営責任者	富山 幹太郎																						
専務取締役 グループ国内事業担当	奥秋 四良																						
常務取締役 兼最高財務責任者	三浦 俊樹																						
常務取締役 グループ海外事業担当	高橋 勇																						
取締役 兼常務執行役員 トイ事業本部長	柳澤 茂樹																						
取締役 生産・技術統括担当	岡田 三郎																						
取締役	渡辺 泰行																						
取締役	新美 春之																						
常勤監査役	松葉 光雄																						
監査役	吉成 外史																						
監査役	梅田 常和																						
執行役員	<table border="1"> <tr> <td>コンテンツ事業戦略本部長</td> <td>沢田 雅也</td> </tr> <tr> <td>フロンティア事業本部長</td> <td>神尾 俊二</td> </tr> <tr> <td>TOMY UK LTD.会長</td> <td>杉山 和彦</td> </tr> <tr> <td>管理本部長</td> <td>田島 省二</td> </tr> </table>	コンテンツ事業戦略本部長	沢田 雅也	フロンティア事業本部長	神尾 俊二	TOMY UK LTD.会長	杉山 和彦	管理本部長	田島 省二														
コンテンツ事業戦略本部長	沢田 雅也																						
フロンティア事業本部長	神尾 俊二																						
TOMY UK LTD.会長	杉山 和彦																						
管理本部長	田島 省二																						
従業員	268名(出向者、嘱託等を除く)																						
取引銀行	<table border="1"> <tr> <td>三井住友銀行</td> <td>みずほコーポレート銀行</td> </tr> <tr> <td>東京三菱銀行</td> <td>商工組合中央金庫</td> </tr> <tr> <td>りそな銀行</td> <td>足利銀行</td> </tr> <tr> <td>東京都民銀行</td> <td>千葉銀行</td> </tr> <tr> <td>中央三井信託銀行</td> <td></td> </tr> </table>	三井住友銀行	みずほコーポレート銀行	東京三菱銀行	商工組合中央金庫	りそな銀行	足利銀行	東京都民銀行	千葉銀行	中央三井信託銀行													
三井住友銀行	みずほコーポレート銀行																						
東京三菱銀行	商工組合中央金庫																						
りそな銀行	足利銀行																						
東京都民銀行	千葉銀行																						
中央三井信託銀行																							

### 株式の状況 平成17年3月末現在

会社が発行する株式の総数	60,000,000株
発行済株式の総数	20,419,299株
1単元の株式数	100株
株主数	17,792名

大株主(上位10名)	当社への出資状況	
株主名	持株数	出資比率(%)
有限会社トミーインシュアランス	2,260,476	11.07
富山 幹太郎	1,963,700	9.61
富山 長次郎	1,456,000	7.13
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,136,400	5.56
東京中小企業投資育成株式会社	760,156	3.72
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン	738,100	3.61
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー-505025	653,600	3.20
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー インターナショナル・リミテッド	571,850	2.80
富山 優	480,882	2.35
不動産合資会社	472,680	2.31

所有株式数別株主数比率



所有者別株式数比率

